

地域ブロック：近畿

ルート名称：琵琶湖さざなみ街道・中山道

活動名称：リレーウォークを活用した地域の顕彰

1. 活動の概要

(1) 活動内容

地元団体の横の連携、ネットワークを図ることを目的に、風景街道パートナーシップに参画する「歴史街道推進協議会」と「中山道近江路連合会」の連携事業としてリレーウォークを実施した。参加者は、パートナーシップの一員である地元市町村、滋賀国道事務所の他、「中山道」に想いのある地元の人、一般の人と観光ボランティアガイド、観光協会など。（実施地区により異なる）

約63キロ、8宿（守山、武佐、愛知川、高宮、鳥居本、番場、醒ヶ井、柏原）を、各宿場間の8回程度（1回8～12km）に分けて、ウォークイベントとした。

実施毎に各地域の市町村担当者、観光ボランティアガイド、まちづくりに関わる団体など協力を得るとともに、自分たちの地域以外への参加を呼びかけ、リレー式に街道にそって地域をつないでいくイベントとした。



(2) 活動による成果・効果

◇地域情報の蓄積

- ・ リレーウォークを実施するにあたって、事前に地元との調整、現地調査を実施し、各地域から観光パンフレット、文化財を紹介する資料などを収集し、マップおよび地域資源を紹介する資料をまとめた。
- ・ 宿場間の移動の安全確保のため、事前調査による危険箇所の洗いだしや迂回路の設定をおこなっている。（危険箇所：歩道がないところ、横断歩道、信号がない場所の横断、極端に道幅の狭いところ、また非常に自動車の交通量の多いところ、特に大型車が多いところ）

◇地域間連携の促進

- ・ 各地域の方に対して、リレーウォークの募集要項を送り、実施した事業の報告を一定期間（年2～3回程度）ごとに送っている。また、歴史街道推進協議会が独自の事業として実施している広報PRで中山道など滋賀の情報を発信していることなどを報告している。結果、具体的な事業を行っていることを知ってもらうことで、回を重ねる毎に各地区の理解が進み、協力が得やすくなった。

(3) 活動のきっかけ、目的・目標

- ・ 各宿場（各町）単位での活動はあったが、「街道」を通しての連携が十分でなかったことから、地域間連携を深めるための何らかの具体的な手段が必要であると考え、比較的協力の得やすいイベントを実施することとした。

地元関係団体と歴史街道倶楽部のフォーラムメンバー（地域づくりに興味をもつ他地域の一般人）を参加メンバーに、中山道リレーウォークをおこなうことにより、中山道を観光ルートとしての「道」、古道・街道として歴史的価値をもつ「道」、生活道路としての「道」など、様々な観点から見ることにより、それぞれの地域の「良さ」「問題点・課題」を検証する。

地元の人が問題点を見つけ、また、気付かなかった地元の宝を知ることは、今後の具体的なまちづくりにつながる。一方、身近にあると意外に気がつかない当たり前の「良さ」や「課題」もある。それを別の視点をもつ外目から、見つけることができる。特に歴史街道倶楽部で今回参加している方々は、興味をもって色々な地域に行っている方、地元で同様の活動をされている方が多い。また、外部から同じような意見が寄せられると具体的な動きにつながることもあると考えられる。

あわせて、「道標」「石畳」「松並木」の整備などにつき、関係機関へ提案するための資料を整えていくことを目的とした。

2. 取り組み内容

(1) 活動を行うに当たっての主な課題

- ・ 地域資源、取り組みについてどれだけ洗い出すことができるか。
- ・ 「まちづくり」や「道路」に関する共通課題の抽出。
- ・ 地元の理解促進。
- ・ 他地域で実施するウォークへの参加促進（地域間連携の促進）。

(2) 具体的取り組み内容

- ・ 近江路中山道を約10キロ程度に分け、リレー方式でウォークを実施する。

＜コース＞

3月	：第一回ウォーク	：草津～守山宿	（約 6キロ）
5月	：第二回ウォーク	守山～鏡の里	（約9.5キロ）
7月	：第三回ウォーク	鏡の里～武佐	（約 6キロ）
9月	：第四回ウォーク	武佐～愛知川	（約10キロ）
11月	：第五回ウォーク	愛知川～高宮	（約 8キロ）
2月	：第六回ウォーク	高宮～鳥居本	（約 6キロ）
3月	：第七回ウォーク	鳥居本～醒井	（約 8キロ）
5月	：第八回ウォーク	醒井～柏原	（約 6キロ）

ウォークへは毎回約20名程度が参加している。

- ・実施にあたっては、事前に地元との調整、および資源の洗い出しや道路の状況などの調査をおこなう。準備は歴史街道推進協議会の2名（専従ではない）が担当した。
 - －1回のウォーク実施にあたって、3～4回地元を訪問
 - コースの事前調査
 - 1回目 ・50～100m毎に道路状況等の写真撮影
 - ・実際のマップと街道の位置、資源および危険箇所を確認
 - 2回目 ・ウォーク実施時のタイムレコードに沿いながら、再確認
 - 地元との調整
 - ・コースについての情報収集および意見交換
 - ・資料などの提供依頼（主に歴史的文化的資源についての資料。まちづくりなど地域の取り組みについての資料など）
 - ・活動内容などについてのヒアリング
- ・一般人の参加とあわせ、できるだけ地元関係者へ参加を呼びかける。
 - －調査したコースの状況を踏まえ、ウォークコースを決定（時間配分、休憩箇所、説明ポイントなど）
 - －ウォークイベントについては、受益者負担の考えで参加者に実費分（昼食代、入館料、保険代、謝金など）の参加費を徴収した。
- ・実施後にアンケートなどを通して地元への評価、課題などの洗い出しをおこなう。

3. 取り組み上の反省点、活動の結果生じた課題、その対応方針等

- －同一地域の中でも「まちづくり」への考え方、関わり方などの違いにより、様々な団体（人）がある。地域間連携とあわせて、地域内連携も重要な課題。
 - 例えば、郷土史家と観光ボランティアガイドの連携。まちづくり団体も個人主体のものが多く、必ずしも協力体制がとれていない。
- －一過性でなく、継続的に地域と関わる事業を実施していく。
 - 例えば、
 - ☆リレーウォークの継続（今回のデータを活かし、参加者を広げていく・事業費については、受益者負担を基本に考える）
 - ☆さざなみ街道の活動とあわせ、イベント形式で地域の参加者をつのり、地域間の連携についても進めていける体制づくりを検討する
 - など

4. 問い合わせ先

所属団体：歴史街道推進協議会

担当者名：稲永明子

電話番号：06-6448-8716

メールアドレス：inenaga@rekishikaido.gr.jp

関連HP：http://www.rekishikaido.gr.jp/biwakofukei/